

第2回
多可町生涯学習まちづくり委員会

会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

第2回多可町生涯学習まちづくり委員会 会議録

- 日 時 令和4年9月14日(水) 午後7時30分～午後9時30分
- 場 所 アスパル健康福祉センター 研修室
- 出席者
- ・委員 10名/12名(敬称略)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 近藤 文好 | 遠藤 ひとみ | 藤賀 幸子 | 杉本 真 |
| 立岩 一真 | 蔦木 伸一郎 | 山本 和樹 | 山本 早希 |
| 小林 一光 | 石塚 郁 | | |
- ・欠席委員 後藤 さおり 小寺 祥之
- ・事務局
- | | |
|----------------|-------|
| 生涯学習課 課長 | 藤原 徹 |
| 副課長 | 生田 恵子 |
| 教育担当理事兼教育総務課長 | 藤本 志織 |
| 教育総務課 図書館長 | 畑中 俊裕 |
| 図書館司書 | 依藤 啓子 |
| 防災環境担当理事兼建設課長 | 藤原 照明 |
| 建設課 建設プロジェクト室長 | 藤田 賢嗣 |
- 議 事
- (1)次第2 座長、副座長選出
 - (2)次第3 委員プレゼンテーション (前半)
 - (3)次第4 グループ・ディスカッション
テーマ「委員会でやりたいこと」
- 会議結果
- (1)次第2. 座長、副座長を決定しました。
→全委員のプレゼン後の選出とする前回の決定を変更することを諮り、承認を得ました。
→多可町生涯学習まちづくり委員会設置要綱を改正します。
(副座長1名→2名)
 - (2)次第4. グループにわかれてのディスカッション、発表を行いました。
→発表内容
 - ・利用団体、個人へのヒアリングの実施
 - ・アンケート (シールアンケート) の実施
 - ・他市町の施設を見る
 - ・図書館について学ぶ
 - ・PR 活動

■会議の経過

<p>次第 1</p> <p>(事務局)</p>	<p>開会</p> <p>(開会を宣言)</p>
<p>次第 2</p> <p>(事務局)</p> <p>(A委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(事務局)</p> <p>(山本和樹委員)</p> <p>(山本早希委員)</p>	<p>座長、副座長選出</p> <p>前回の委員会の時に、まずは皆さんにプレゼンテーションをお願いし、お互いのことを知ったうえで互選で決めていただくことで同意をいただいております。</p> <p>しかしながら「委員会を立ち上げたからには長を早く決めるべきでは」とのご意見を内外からいただきました。また今回からは一般傍聴者も入られますし、広報等、早く取り組んでいきたい事柄もありますので、ここで座長、副座長を決めさせていただきますと思います。このことについてご意見等ありますか。</p> <p>第2回委員会ということで、今から各委員のプレゼンが始まります。第1回の会議で役員の選出については後日決めるということで皆さん共通理解できたわけですが、事務局にお任せしないで私たち委員で主体的に会議を進めていく方がいいのではないかと感じておりました。第2回、第3回と同じ進行で会議が進められるようですので、2回目が始まろうとしている今、座長、副座長を決めるのは適当であると考えます。私は、座長には建設基本計画策定委員会から熱い思いで協議されてきた山本和樹さんが適任だと考え推薦します。</p> <p>今、山本委員を座長にというご意見をいただきました。座長を決める、決めないをどうするかということも含めて、他にご意見ありますか。</p> <p>では、座長は山本さんでというところはいかがでしょう。</p> <p>賛成していただける方は拍手をお願い致します。</p> <p>(委員賛同)</p> <p>ありがとうございます。では賛成多数として座長には山本和樹委員にお願いいたします。次に副座長ですが、座長の方から指名していただけたらどうかと思います。山本座長いかがでしょう。</p> <p>大変大役です。私には荷が重いことは十分承知をしておりますが、建設委員会からのこともあり、また諸先輩が長年苦勞してこられていることを十分に聞いてこの場に来ております。必ず令和7年には住民の皆さんが喜ぶ、集う、学べるこの図書館を中心とするプラザを建設したいと思っております。微力ではございます。皆さんのお力を存分に応援をいただきながら頑張りたいと思っております。よろしくお願ひします。</p> <p>副座長の指名ですが、昨今いろいろと町の行事等みておりますと、男女共同参画のシンポジウムや古民家再生等々、いろいろなところで幅広く活躍をいただいている山本早希さんをお願いしたいと思っております。早希さんよろしいでしょうか。</p> <p>させていただきます。</p>

<p>(山本和樹委員)</p> <p>(蔦木伸一郎委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(事務局)</p>	<p>これはいきなりの座長提案ですが、この委員会の設置要綱には副委員長1名と書いてありますが、座長の微力をカバーするという面を含めて2名でという事で、もう1名どうしても推薦したい方があるんですがよろしいでしょうか。</p> <p>(委員賛同)</p> <p>ではもう1名、社会教育士として、また図書館のことにも過去からいろいろと関わっておられます蔦木伸一郎さんと同じく副座長をお願いしたいと思います。蔦木さんよろしくお祈いします。</p> <p>こちらこそよろしくお祈いします。</p> <p>座長からのご提案いただいたことを承認していただいたということで進めさせていただけますか。</p> <p>(委員賛同)</p> <p>就任のあいさつは、先ほど座長からいただきました。副座長にはまたお話いただく機会をとりたいと思います。3人の方、お世話になりますが、どうぞよろしくお祈いします。</p> <p>では、生涯学習まちづくり委員会設置要綱は「座長1名、副座長1名」となっておりますが、この決定をもちまして副座長2名と改正させていただきます。</p>
<p>次第3</p> <p>(事務局)</p> <p>(B委員)</p>	<p>委員によるプレゼンテーション</p> <p>次第3 委員によるプレゼンテーションです。</p> <p>生涯学習まちづくりプラザにどういう思いを持っておられるか、どんな運営にしていきたいか、その思いを5分程度で発表をお願いします。</p> <p>当初の予定では、本日全員に発表いただくこととしていましたが、それだけで今日の会議時間が終わってしまいます。今日も聞くだけの会議で終わるのもいかがかと思ひ、今回と第3回で6人ずつに分けさせていただきますと思ひます。</p> <p>今日は6名の方に発表いただきます。まず、発表順を決めさせていただきます。</p> <p>(プレゼン順序決定)</p> <p>ではお祈いします。</p> <p><プレゼン①></p> <p>商工会青年部の女性部でも話題にあがることの一つは、会議の時の託児についてです。夜の会議の時に子どもを預けられたらいいなとか、ちょっと出かけるときに託児所がこういう施設の中に入っていたらうれしいなという声があがっていました。</p> <p>それから宿泊施設についてです。以前、町内の宿泊施設をお取りしてお客さんに</p>

泊まってもらったんですが、おぼけが出そうで西脇のホテルに予約を取り直されました。少し小洒落た泊まれる施設や、Bar とまでは言わないですが、呑めるような空間施設があれば接待や宿泊に使用できていいと思います。この施設の中に、いろんな価格の宿泊施設をつくってもらえたら嬉しいという声もありました。

また、1日食堂のようにコックさんのたまごや料理人が成長する場をつくれるようにキッチンを貸し出す。自営で飲食業をしたいというときに成長できる場、使える施設が宿泊施設の横につくり、今週はこういう人、来週はこういう人というふうにするとファンが出来て、この宿泊施設に泊まりたいという方も出てくるのではないかと思います。

また、多可町に「こころね」という小学生以下で散歩など色々なことを企画されてるところがありますが、小学生以上など、選択肢を増やして自然の中で遊べるような拠点を増やし、その施設からいろんなところに遊びに行けるようなルートを示せるようなことが施設で出来たらなという意見がありました。西脇市の「みらいえ」には、有名なおもちゃ等がたくさんあります。有名なおもちゃメーカーのおもちゃを置いてあげることで皆さん遊びやすい空間づくりが出来、子どもを預けたりするような空間施設も出来るのかなと思いました。

もう一つ、学生は今どこで勉強してるんでしょうか。昔は図書館へ行って勉強するとか、西脇だったら「みらいえ」に行くと思うんですが、そういった学習スペースも必要になってくるので、面白い学習スペースが出来たらなと思います。

理想は13億5千万なので10億位をこういう施設に使って、3億は古民家等を使って宿泊施設を造り、その運営者に生涯学習施設の運営をしてもらおうという流れも楽しいのかなと思います。

役場の方も僕たちに任せるといふ空気感はあるんですけど、役所もこれから終身雇用ではないので、もうけるというところがあって、もしかしたら半分民間委託というところも出てくると思うので、やっぱり自分達もどういふ運営をしていったら見合うとみんな一緒になって考えてもらったらなと。多可町みんなで考えられたらなと思います。

<プレゼン②>

(C委員)

社会教育士という資格をもっていて、これまで岡山県西粟倉村で図書館と生涯学習の複合施設、まさに多可町の生涯学習まちづくりプラザと同じような形、位置付けの施設の新設立ち上げと運営をやってきました。いまはNPO法人で社会教育士をさせてもらっていて、司書資格も持っています。

社会教育士とは、一言で言うと地域のいろんな課題を学びを通して解決していこうということで、様々な人をつないで学びという形で地域の関わるいろいろな課題を解決していくのが社会教育士の仕事で、2020年度から出来た新しい資格です。

私自身、社会人になったときに生涯学習に出会い、当時名古屋に住んでいたんですが大ナゴヤ大学というまちをキャンパスに見立て、「誰でも先生になって誰でも生徒になれる学びの場」ということを生徒・スタッフとして体験してきました。こういう形で、それまで知り合うことがなかったいろんな人と出会いました。

具体的に西粟倉村でどんなことをしてきたかという、図書館と生涯学習施設の準備と村民と共につくる施設運営、村民の情報発信の支援とつながりづくり、地域における学びの場の創出と人材発掘、村民の活動支援伴走ということで、村民と一緒に施設を運営しながら村民の自己実現ややりたいことを実現していくお手伝い

をしました。施設の詳細については端折りますが、木造の建築で2階建、公民館と図書館の機能と役場施設が入っているような施設になります。

まず我々がやったのは「ルールをつくらない」ということです。禁止することを禁止するというか、図書館なんですけど私語をしてもOKとか、飲食してもいいし、テレワークで使ってもいいし、許可さえ取ればいいような形で、なるべくここでやれることを増やしていったって、村民の方が気軽に来れるような場づくりを心がけていました。卓球で遊んだり、図書館の中に滑り台があったり、右下の写真は本の整理の時に村民の方に声をかけて手伝っていただいているんですけど、これが思いの外楽しいということで皆さん積極的に参加してくれて、イベントとして図書館の作業を一緒に手伝ってもらいました。

あとは「やってみん掲示板」というものをつくって、村民の方が情報発信を出来るような場をつくりました。何か活動したいときに仲間を募集したり、「イベントするから来てよ」というようなことを気軽に自分で書いて投稿できる掲示板です。これは村だから出来ることです。個人情報が出てるんですが、村の中で実際に見て気になったことには付箋でコメントを入れてお互いにそこで初めて知り合って、じゃあ活動をやってみようという形です。

あとは村民の方に実際に講師になってもらい、いろんなイベントやワークショップを作っていました。というのも村ではなかなか講師になれる方がそれまであまりなくて、外から講師を呼ぶと予算がかかってしまうので、村内で好きなことがある人に講師になってもらって、幸いこの村には移住者が人口の1割くらい、人口1300人なんですけど、150～160人くらい移住者がいて、地域おこし協力隊が30人以上いるような村です。それぞれ特技をもっているのでもうそういった方を講師にしているようなワークショップや学びの場をつくりました。

そのことによって何が生まれたかという、移住者の方でいろいろ活動してるんです。思いがあってこの村に来て活動してるんですが、なかなか村民の方に知ってもらえる機会がないということと、村民の方も移住者のことすごく気になっていて、知りたいとは思っているんですが、なかなか話す機会がないので、学びの場を通して村民と移住者が出会って「この子はこんなことをやってるんだな」というのを知ってもらうような機会になって、そこから新しいつながりが生まれて、彼らも基本商売しているのでもそこに物を買に行ったりとか、それをきっかけにいろんなつながりが生まれました。

まちづくりプラザでやりたいことなんですけど、やはりだれもが先生になって生徒になれる学びの場をこのプラザの中でつくっていききたい。あと図書館に関しては図書館をもっと外に出して、本のある場所を図書館と見立てて皆で図書館をつくっていくみたいなこともいろんな地域でおこなわれています。あとオープンデータの体験ということでウィキペディアを自分でつくる。多可町に関係あるようなビデオを皆でつくっていくようなことも、図書館を通して出来ることだと思っています。

あと私のような社会教育士をもっと多可町に増やしていきたいということです。計画の中にも生涯学習コーディネーターを増やすとなっているんですが、これはまさに社会教育士のことだと思っているので、これを増やしていくような活動をしていきたいと思います。

この先は皆さんとお話をしながらしていきたいなと思っているんですが、私もいろいろ自分で図書館と生涯学習を立ち上げてきたのでいろんな事例を知っています。多可町に参考になるような施設もたくさんあるので、機会があれば皆さんと一

(D委員)

緒に行ければなと思っています。

<プレゼン③>

「こって面白いよね」「ひとりでも、家族で来ても楽しいよね」「ボク、友達つくれたよ」「私は外で踊るんだ」「あ！ママ友も来てるよ」「おじいちゃんは、ゆっくり本を読んでいるからね」「おばあちゃんは、昔遊びの先生だよ」「また、みんなで来ようね」「さあまの「おもちゃ箱」をひっくりかえそうか」こんなイメージです。図書館を中心としたまちづくりプラザ、こんなイメージになればいいなと思っています。

私は平成25年当事の情報をあえて入れず、未知の状態で「生涯学習まちづくりセンター（プラザ）」とは何かを考え令和3年の建設委員会で公募委員としてなるため書面をかきました。昨年の生涯学習まちづくりセンターの建設委員会の1回目。中には平成25年度に検討され答申をまとめられたメンバーの方が多くおられ、私は正直とちがい、諸先輩に伺いに行った。当事、なぜ最終的には議会にて否決をされたのか？その当時なぜ建てることはできなかったのか？・・・その上で、前回の復讐なのか？など様々なことを考えてしまい建設委員会での心のスタートラインが個々に違っていることが気になりました。

今回のまちづくり委員会は1回目にそのスタートラインの確認から始まった。それは以前から来ている者は聞くだけ、新しくメンバーになられた方には、戸惑う部分もあったかもしれない。ただし「本気」で取り組み必ず完成後に成功させるために必要な手順であったとも思います。

生涯学習まちづくりプラザは、地域文化の象徴、情報提供の拠点、住民の憩いの場などさまざまなニーズに応える必要があり、その総括として建設基本計画の素案としてまとめられてある。多少の建設や設備に関しては若干の修正も加えることもあるだろう。

ただし、この委員会の主体的目的として、建設までにどう地域住民の方に「生涯学習まちづくりプラザ」とは何かを広く正確にどう伝えるか？完成後に適切な運用を果たすにはどうすべきか？を考えることが重要だと思います。

今も噂で「新しい箱もの」不要論や、空く大型建物の利活用を声高に聞くことも多い。「会って話がしたい」といって来られる方もあります。

人口減少は過去の責任であり、未来や今の子供たちや若者に学び・集い・語らう場を長く使うことを前提に今新しく作るのは、今を生きる者の責任であり、挑戦する、応援するを実践行動する大人が増えれば、未来はもっと早くかえられるはずだと私は思います。

新しい時代に新しい建物を「活きた組織」として活動を継続することが「新しい時代の運営・経営」であり、その継続が新しいまちづくりや新しい官民連携のあり方やガバナンスを作るのだと考えます。

そして、完成後の「生涯学習まちづくりプラザ」が多可町の新しいシンボル・ブランドとなり、住民のエムブレム・プライドとなる、そんなプラザでありたいと願います。

建設委員会で一緒であった先輩から、プラザの議論はまずは共通認識度をどこに置くかが大事だと指摘をされた。次世代へバトンタッチだ。ガンバレと励まされた。他の先輩には、30年前、初めてのホール建設「ベルディーホール」に取り組んだ顔ぶれはほぼ30代のメンバーでした。期待していますと励ましの声をください

た。

ただこの先輩達は大きな勘違いをされている。私はもう数年で還暦なんですよと。とにかく、この委員会はばたばたもワクワクもアタフタも全てを大歓迎し、令和7年にみんな笑顔で風船を飛ばしましょう。

どうか皆さんご協力の方よろしくお願い申し上げます。

<プレゼン④>

(E委員)

3つ申し上げたいことがございまして、1つはこのまちづくりプラザ、まあ図書館ですね。ここはエリアのイメージとしては公園の中にあるまちづくりプラザ、図書館というのをイメージしておりました。そこに中学校が公園の中に出来る。仲間が増えるということで、エリアとしての価値[?]や仲間も増えるということは良いことだなと思ってます。

先日そのエリアを1人で歩いてきました。歩いたときのイメージは、大きな木があって木の間を歩いて行くような形になるんですが、はっきり申し上げて無くなるのはもったいないなと思いました。

中区のまちづくりプラザの建設基本計画の説明会に行ったんですが、その中で「箱物はいらない」ということをおっしゃる方がおられた。「箱物って何かな」とそれ以来ずっと考えているんですけど、言っておられることは正しいと思います。それでも私はまちづくりのために、まちづくりプラザと図書館は必要だと、建てて欲しいというのが私の思いです。

まちづくりというのは、気持ちとしては第1回からすでにまちづくりは始まっているんだな。どういうものをつくらうとかそういうことを考えることがすでにまちづくりだというふうに思ってます。

2つめなんですけど、このまちづくりプラザをどうするとか、まちづくりをどうやっていくんだということを思った時に、私は今回マーケティングを徹底的にやりたいなと思ってます。「マーケティングって何するねん」ということなんですけど、町の中に実際にサークル活動をされてる方やいろんな団体があります。おそらくユーザー、もしくはプレイヤーとなる方々に広く会って話を聞くというところから始める必要があるとか、話さないと何も始まらないくらいに思ってます。皆さんどこかに首をつっこんでおられると思うんですが、そういうところを一つずつ回って、このまちづくりプラザ・図書館のお話をして意見を聞いて、出来たときにはすごいユーザーになっていただくというふうにもっていければなと思ってます。サークルと団体のリストとあと名刺があればすぐに始められるかなと思ってます。

図書館についてなんですけど、図書館基本計画の方を読ませていただいてなるほどと思いました。それを具体的に、ユーザーからすると今は出来ないことが出来るようになったり、図書館は「思っているところから脱する」というようなことも基本計画の方には書いてありまして、そういったところをどういうふうアピールしていったらいいのかなと、図書館だけではなくてまちづくりプラザもそういう広場がありますので、まわりのエリアも含めてそういったところをアピールしていけたらいいなと思ってます。

あと図書館のことはよくわかりませんが、何か基幹システムのようなものがあるのであれば、これからの変化していく時代に合わせるために、拡張性があったり、あるいは冗長性等もよく考えてつくっていく必要があると思います。

(F 委員)

<プレゼン⑤>

60年間違う仕事をしてたんですが定年退職をしてから大学に行きたいなと思いで、生涯学習ですね。大学に行って図書館司書をとりました。そしたらこのような係をいただきまして、初心者マークでここへ出てきているという形になるんですけど、好きだったらいつでも学べるなどということを実感しております。

私は生まれたところと、今の住所しか住んでいません。どこにも行ってないんです。というのは「最期まで住みたいまち多可町」なんですね。だから「子育てするならダントツ多可町」という言葉もあるんですけど、「最期まで住みたいまち多可町」と私は捉えてその観点からお話しさせていただきたいと思います。

不易と流行という言葉がありますが、今まで発表された方は本当に最先端の事をいろいろ考えてくださってるんですけど、私はもう66歳ですけど、私たちにも未来はあるわけで、私たちもまちづくりプラザをつくりたいわけですし、図書館も利用したいと思います。それで最期まで多可町にいたいので、高齢者施設にいてもこの本が欲しい、借りたいなという時にすぐに手元に届くように、先ほど言われたように多可町全部が図書館にということで、今は学校に団体貸出をされてますけど、高齢者施設、福祉施設、授産所等、いろんなところに団体貸出をしてもらえたらなと思っています。

それから、アクセスがしやすいように、必ずどこ行きのバスもまちづくりプラザには必ず停まる、そういうルートバス担当の方をお願いしたり、出来たら移動スーパーじゃないですけど図書館からバスに乗せて本を各地区に回ってもらう。読む人が来なくてもとにかくこの時間に来たらここに移動図書館があるよっていう、そういうような老人も大事にしていだけるまちづくりもいいんじゃないかなと思います。

それから、どんどん新しいITですか、私たちは非常に苦手なんですけれども、そういうのを駆使してリモートで家から「ちょっとこんな本が欲しいねんけど」で表紙だけでも見せてもらうだけでも、「あ、それぞれそれ」って指さしたらそれが近くまで届くとか、加美プラザまで届くとかそういうように年寄りなりに使えるITの方法をしてもらえたらなと思っています。

とにかく自分が最後まで杖をついてまでまちづくりプラザに来れる方法というものを私なりに考えて、ささやかですけど地域の人とのネットワークは老人会に入っておりますので、強いので、そういうお声も聞いて、今は総会もないですけどそういうところにも出向いて「こうやって図書の本が検索出来るんですよ」とか「こんな本があるんですよ」ということがあればどんどんボランティア使っていて、元気なおばちゃんいっぱいいますので、そうやって今あることをもうちょっと太らせていく、そういうやり方もあってもいいんじゃないかなと思っています。

(G 委員)

<プレゼン⑥>

はじめに、若い委員の方は平成・令和のこの世界が当たり前になってるかと思いでます。私は昭和の時代のだ真ん中の人間ですけども、先日のTVで非常に面白いのをやっています、今は通用しない昭和の時代の常識というものがありまして、良い悪いとかではなくて、もうそういうふうに変化している、変化しようとしているということです。

例えば、タレント、野球選手の名鑑に住所・氏名・電話番号までが当たり前に掲載してあって、ファンが突然家の前にやって来るということが普通にあったそうです。今では個人情報絶対ですのでそういうことはなくなっています。それから給料が現金の手渡しということ。私が勤めだした何年かは現金支給で、給料日は誰かに襲われるんちがうかなとヒヤヒヤしながら家に着くまで安心出来ませんでした。それから電車内、映画館の中でも大人は普通にたばこを吸っていました。先生も教室でたばこを吸っておられる方がありました。今では本当に許されないことです。駅に伝言板があって連絡をとりあいました。バイクはノーヘル、車もシートベルトなしで普通に運転して、正月はどこの店も一斉に休みというような、そういう昭和の時代だったんですけど、特にここ数年で時代が大きく変化しています。このようなことです。もっと細かい事がいっぱいあると思いますけど、行く先不透明、将来予測は非常に難しい時代なんですけども、5年先、10年先を見据えてまちづくりプラザを運営していかなければならないと思います。

建物は明るく、親しみやすく、気軽に使える、そんな施設でなければならないと思うんですけども、どう活用していくのかそのソフト面に重点を置いていく必要があるんじゃないかなと思います。まだ調べてないんですけど、海外のアイデアも参考にしていくことも大事なんじゃないかなと思います。

まず、賑わいを演出する空間ということで、使う人がいなければ施設はただっ広くて寂しい空間でしかない。人と人とのふれあいの中でこそ活力が生まれます。せっかくの施設、人がいなくてガランとしているのでは寂しいですもったいない。これは皆の工夫で避けなければならないことだと思います。特に高齢者が「家にいるよりもプラザに行こう」と、プラザを選んで足を運ぶと、気軽に快適にそしてそこで楽しく過ごせたり出会いもあつたりと、それがうれしいなと思います。もう一つ高齢者の特権で、仕事をしない時間がたっぷりあるということで、子ども達がいないうちにゆっくりとくつろごと、昼間そんな世代にも来てほしいなと思います。孤独になりがちなこの世代に、交流の機会を提供するなど、図書館、複合施設が提供できるサービスはいっぱいあると思います。そういうイメージで賑わいと静かな環境と両方共存を検討出来るだろうと考えます。

2つめは各世代の趣味嗜好に合った雰囲気があるということで、赤ちゃん、幼児から高齢者まで多世代が相互交流できるということが基本なんですけども、子育て支援があつたり若者がバンド練習できたり、一方で学校へ行きにくい子や受験生が静かに人目を気にせずに学習できたり、高齢者はきゃぴきゃぴした空間よりも古民家のような板張りの落ちついた空間でゆっくりしたりと、そんな場も確保できたらなと思います。そして子ども達が大事にされているなという感じ、これはもう誰も嫌な気はしない。乳幼児が自由に遊べるような遊具を置いたり、保護者同士の情報交換が出来るような場があつて、自然と目が行くようなことを大事にしたいと思います。

また行きたい、行って良かったと思える、来館した子どもたちが楽しかった～と思える施設であること、とにかくリピーターを増やしていくこと、会議や講座などの集まりの前後、登下校の待ち時間などを楽しく過ごせる、図書館外で楽しく過ごせるしかけがあることが大事だと思います。

カフェも含めて、ちょっとした買い物ができるなど、ワクワク感、満足感を感じられるプラザになればと思います。

目標を設定し検証するという事で、子ども達が楽しかったなと思えるような施

	<p>設、リピーターを増やしていくこととか、カフェなんかも含めて、満足感を得られるプラザになればと思います。貸出者数とか来館者数、満足度などを一定期間で達成出来てなければ徹底検証して皆で知恵を出し合って良い施設にしていく努力が必要だというふうに思います。</p> <p>最後に一番言いたいことですが、受付ですべてが決まるということで、病院、銀行、学校、役所なんかは一個人が頻繁に出入りするところではないので、敷居が高いんですね。行きにくい。そんな場所で最初に出会う受付の人が感じ悪かったらもうこの施設嫌やなど、中がいくら魅力的でも非常に嫌で、そういう面で採用するとき施設に入って最初に会う人は感じのいい人をお願いしたい。私は重大なソフト上のポイントだと思います。</p>
<p>次第4</p> <p>(事務局)</p> <p>(D委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(E委員)</p>	<p>グループディスカッション</p> <p>ここからは皆さんで話し合いの時間をもっていただきます。</p> <p>テーマは「委員会で今からやっていきたいこと」です。今のプレゼンを聞いて自分はこの事を進めていきたいとか、自分の考えではこういうやり方でやっていきたいということを皆さん話し合っただけならと思います。この委員会の目的としましては建設計画策定の答申では、住民の住民による住民のための学びを実現するために運営組織の立ち上げなど、町民が運営に参加出来る体制づくりを検討することということになっております。このあたりを念頭に置いていただいて皆さんで自由にトークをしていただけたらと思います。今から30分ほどお時間をとりたいと思います。</p> <p>最後に発表していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>ちょっといいですか。委員会でやりたいことというのはプラザが完成後やりたいこと。それとも委員会のこの今の1～2年の中でやりたいこと？</p> <p>今から委員会としてどういう活動をしていったらいいかという「今からのこと」です。委員会でどういう動きが出来るかを考えていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">－ グループディスカッション －</p> <p><発表：A（右側）グループ></p> <p>プレゼンの時に申し上げたんですが、マーケティングをやりたい。とにかくいろんな団体、サークル、協議会、いろんな人とお話をして、そこから「こんなものが欲しい」という意見を聞いたり、逆に「図書館ってこんな使い方が出来るんだよ」ということを気づいてもらったり、今多可町にいる人ととにかく接触をするという事からはじめるのが基本であると思う。いろんな気づきやそういうのをもちながら、外部の実際に評価を得ているような図書館やまちづくりプラザを見てまわり、そこで気づいたり刺激を受けた事を多可町に持って帰ってきて自分たちに合うものをつくっていく、そういう循環もいいんじゃないのかなと。この「たかの風」という文化連盟さんの書かれている冊子ですけども、こちらにもたくさんのグループがあがっています。こういったところは是非一つ一つ、実際に活動されているところへ行ってお話を聞いてくる。そしてこちらの方もお話をしてくるというふうなこ</p>

とからはじめてはどうかという話でした。

<発表：B（左側）グループ>

同じ意見が出ました。恥ずかしながら私もあまり図書館へ行ったことがなかったので、図書館のことを改めて勉強することや、図書館のあり方や求められることとか、今回は図書館プラス生涯学習という目的があるので、館としてのあり方がどんどん現代で変わっていく中で、どういうのが使いやすいとか、興味ない人にどうやって興味を持ってもらって「一回行こか」という気持ちを持ってもらうかみたいなこともいろいろ話がありました。結局、使ってもらう人、ここで出たのは播州歌舞伎などの活動のこととか、ふるさと創造大学の方がどう使っていくのかとか、どんな機能をどういう人が求めているのかとか。青年部の女性の方からいろんな意見が出たりとか、いろんな意見を持っている人はいるけどこの活動自体を知っている人が少なく、「え？そんなの建つのか？」っていう人も正直まだまだたくさんいるという中で、「こういうのが建ちますよ」というのを知ってもらうことプラス、実際に意見を集約していくためにアンケートなど、話をいろんなところで聞く機会があったらいいなという話が出ました。

これまでの10年間でそういう意見集約をされたことありましたか？

（生涯学習課）

平成25年、サークル活動が盛んであったときに、どういうものがあるか等いろいろとお話をきかせていただいて、位置決め等が出来たという経緯があります。ただし、もう時代が変わってます。25年当時から7～8年経ってしまって、コロナ前、コロナ後っていうようなこともあります。過去には実施しています。

（E委員）

ありがとうございます。今おっしゃったとおり、年数が経ってコロナがあって、今求められているものも前とはちょっと違ってきているのということで、改めてお話を聞くようなこともしてもいいのかなと思います。

先日、男女共同参画でシングルマザーの支援をどうしていくかを話しているときに、そこでも意見を聞きたいというのが出ました。9月11日にわんぱくフェスというイベントがベルディーホールであって、そこで委員さんにボードを持ってもらってお客さんにシールを1枚渡して「あなたはどの支援がいいですか」というのを選んで貼ってもらうシールアンケートをしました。文章で送りつけると、封筒を開けないで捨てられることもあるし、正直に書かないこともあるので、例えば11月6日のふれあいまつり等のイベントの時に、皆さんの力を借りないといけないんですけど、1人3枚シールを渡して、今までにもたくさん議論して、「こういう機能あったらいい」というのがある程度集約されているから、それを体言化して1人3枚渡して3つ選んでもらうとか、本当に必要とされてるのはどの機能なのかという意見のとりかたもやっていったら、いろいろと構想も見えてくるのかなと思いました。

（事務局）

いただいた意見等を座長、副座長と協議の上、次回どういことを話し合っていたかを決めていきたいと思っています。ありがとうございました。

次第5

その他

	(事務連絡)
次第 6	閉会
(副座長)	(閉会挨拶)